S

STANDARD

これからの家のスタンダード

これからの家のスタンダードはSとは

約20年で
価値がほぼなくなる家

これまでの家は、間取りだけを考えた、いわばその場しのぎの設計です。
デザインにもこだわりはなく、断熱性も低く、地震に対する備えもない、
コスト重視のフェイク建材を使用した、
長期的な目線で建てられたものではなく長持ちしない家です。



日本の家は未来に
向かって価値が成長する家

これからのスタンダード「S」は、家づくりのデザインや断熱、
耐震、間取りなどそれぞれの専門家の意見をとりいれた住宅。
またその家を建てた大工がずっと守っていくことで
その価値が成長していく、未来まで考えた家です。



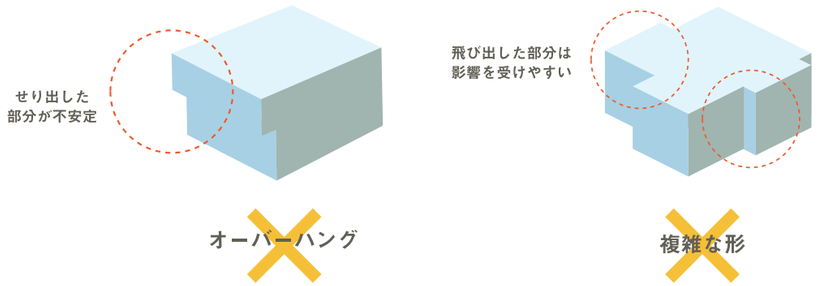
Sのデザイン

1. シンプルな形状こそ無駄のない究極のデザイン

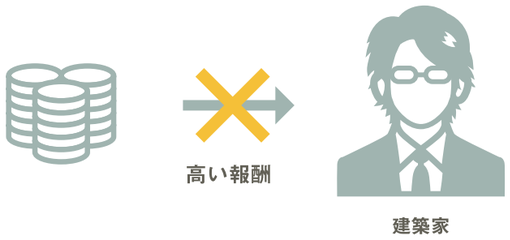
2. 大前提として高い耐震性を担保する

これまでの家は

デザインのいい家は形状が複雑で価格が高い

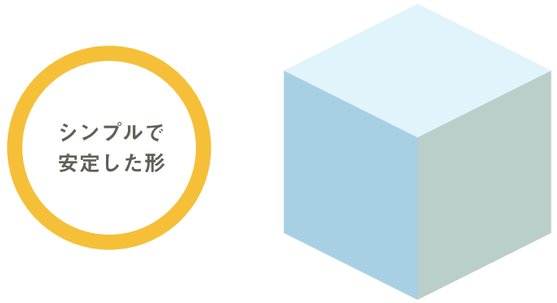


デザインのいい家は建築家への報酬で価格が高い



これからの家は

無駄のない形状は美しく強く無駄な費用がかからない



建築家に頼まなくてもいいデザインの家は建つ



耐久の家　T-BOX　Tree Box　断熱の家

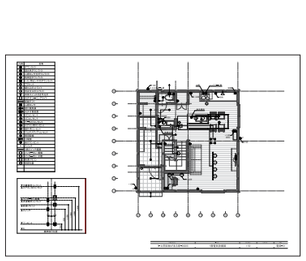
Sの設計（BIM 3次元設計）

1. 3次元で立体的に、具体的に共有できる

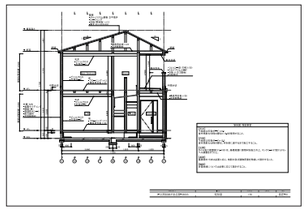
2. スマホ、PC、タブレットでどこでも確認できる

これまでの家は

2次元設計では出来上がらないとわからなかった



2次元の平面図



2次元の立面図

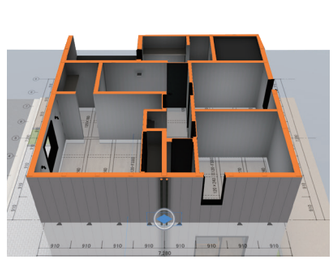
確認する時間と場所を選んだ



対面での打ち合わせでしか確認できない

これからの家は

2次元のような認識の食い違いが起こらない



3次元の平面図



3次元の立面図

品質は安定し、現場での時間が半減する



スマホ



タブレット

Sの耐震性

1. 構造計算による耐震等級３

2. コストをおさえた構造設計

これまでの家は

国の最低基準の耐震性では家を守れなかった



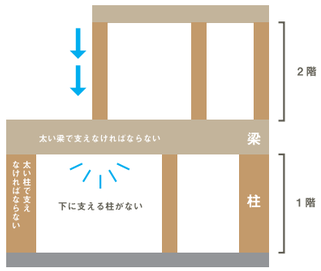
仕様規定による

耐震等級1	耐震等級2	耐震等級3
地震がおきたら	建替が必要	修繕工事が必要	未曾有の地震への不安

耐震性の高い家は価格が高い

直下率が低い

直下率とは
２階の柱のうち、１階柱に一致する割合



柱

これからの家は

未曾有の巨大地震に備えた耐震性能

さらに強い
構造計算による耐震等級３



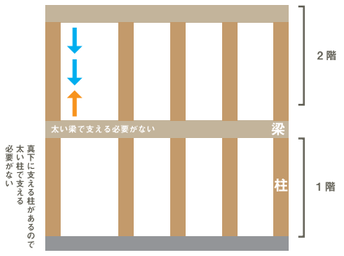
許容応力度計算

「許容応力度計算」とは３階建以上の建築物には必ず用いられる構造計算の方法のことです。建物にかかる固定荷重や積載荷重に地震などの長期荷重、及び短期荷重を想定し部材(構造部材)の内部に生じる抵抗力を計算します。その上で、それぞれの部材がそこにかかる応力に耐えられるかどうかを検証するものです。全ての建築物に対して、地震に対する安全性を確認するための構造計算が義務付けられていますが2階建て以下の木造住宅は特例(四号特例)で義務化されていません。

建材の無駄をなくした効率の良い構造

直下率が高い

建材は必要以上に
太い必要がない



柱

Sの断熱性

1. 断熱等級 5.6 が基準になる

2. 高性能な断熱材で断熱性を維持する

これまでの家は

断熱等級4の家は家族の健康に影響する

断熱等級 3・4

1.54~0.87
W/㎡・K　W/㎡・K

これまでの基準

旧基準		
	1992年～	1999年～
断熱基準	断熱等級 3	断熱等級 4
6 地域 UA値	1.54 W/㎡・K	0.87 W/㎡・K

築年数に応じて断熱性能が落ちていく

グラスウール



湿気を吸って性能が落ちる可能性がある

発泡硬質ウレタン



縮んで性能が落ちる可能性がある

これからの家は

年中快適な温度で過ごせる家の実現

断熱等級 6・7

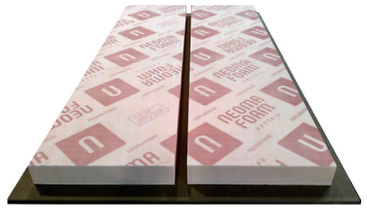
0.46~0.26
W/㎡・K　W/㎡・K

これからの基準

新基準		
2022年4月～	2022年10月～	
断熱等級 5	断熱等級 6	断熱等級 7
0.60	0.46 W/㎡・K	0.26 W/㎡・K

断熱しつづけられる品質でなければ意味がない

フェノール樹脂



トップクラスの熱伝導率

0.020 W/（㎡・K）

厚み

66 mm

Sの光熱費

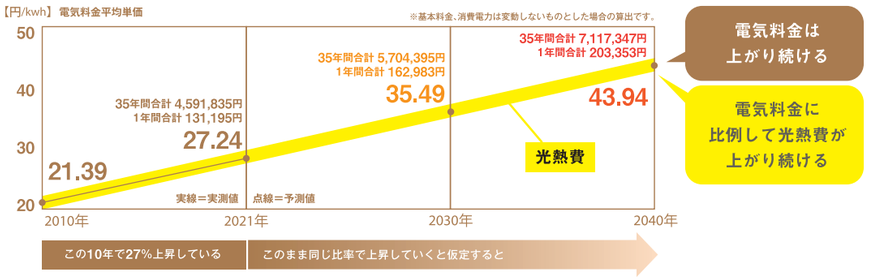
1. 光熱費の負担をゼロにする

2. 断熱性をあげて、効率の良い発電

これまでの家は

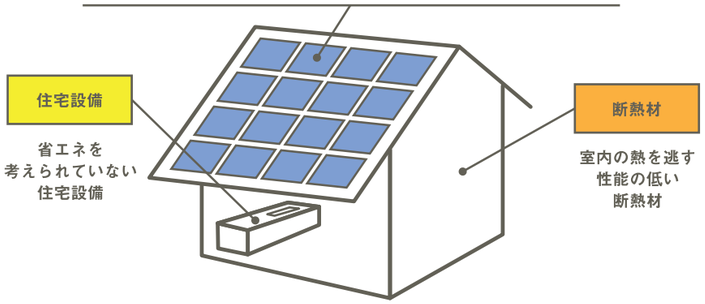
電気代を見えないローンとして払い続ける

電気料金の推移から予想されるこれからの光熱費の差



大量の太陽光発電の数が必要

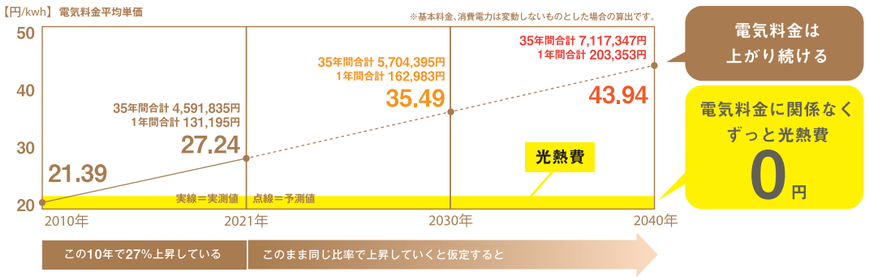
省エネ性の低い設備と性能低い断熱材で大量の太陽光発電が必要になる



これからの家は

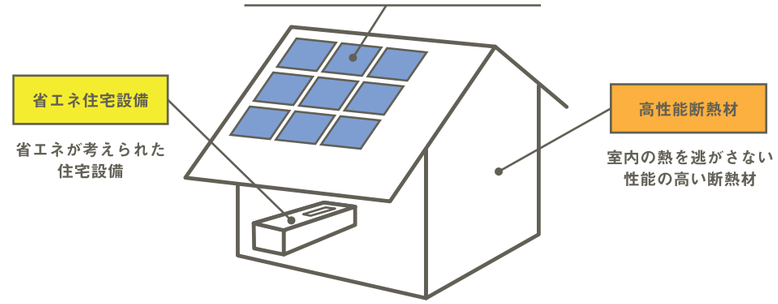
お財布にも環境にもやさしい

電気料金の推移から予想されるこれからの光熱費の差



必要な分だけの太陽光発電で費用を抑える

最小限の太陽光発電で家の電力を賄える



Sの可変性

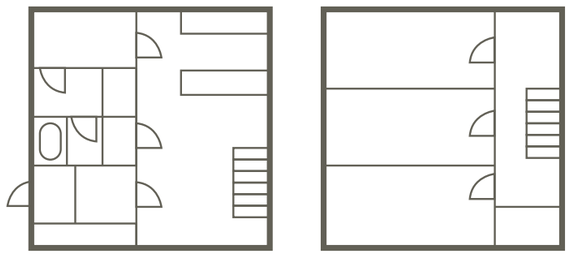
1. ライフスタイルに合わせて間取りを変化できる

2. オーナーが変わっても対応できる

これまでの家は

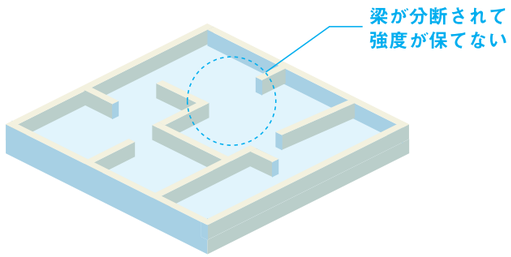
耐震性を内壁で支えていて自由に間取りを変えられない

一度間取りを決めたら動かせない



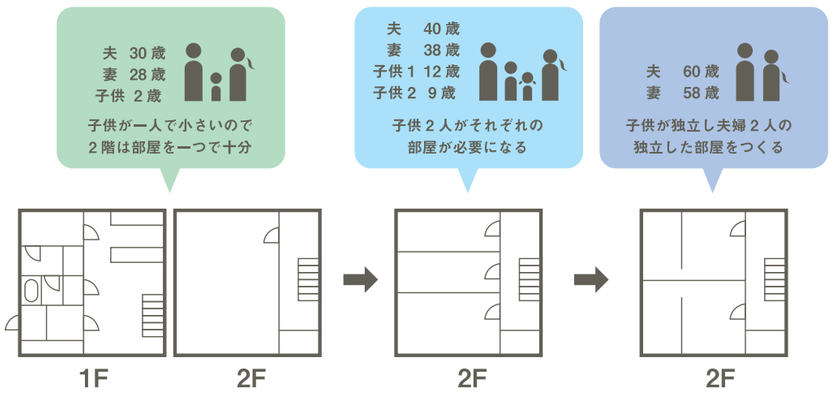
基礎の構造が間取りと連動しているので間取りが変えられない

複雑な基礎



これからの家は

ライフスタイルの変化によって間取りを自由に変えられる



基礎と間取りが連動していないので、自由に間取りが変えられる

シンプルな基礎

